



Kofax RPA

ロボット構築スタート ガイド

バージョン: 11.5.0

日付: 2023-10-02

KOFAX

© 2019–2023 Kofax. All rights reserved.

Kofax is a trademark of Kofax, Inc., registered in the U.S. and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners. No part of this publication may be reproduced, stored, or transmitted in any form without the prior written permission of Kofax.

目次

はじめに.....	4
関連ドキュメント.....	4
トレーニング.....	5
Kofax 製品のヘルプの入手.....	6
第 1 章：ロボットの構築.....	7
概要.....	7
Desktop Automation サービス.....	7
ロボットを構築する方法.....	7
Web サイトと Excel を開く.....	10
Web サイトからの情報の抽出.....	11
抽出した情報を Excel に書き込む.....	16
Excel ファイルをローカルに保存してアプリケーションを閉じる.....	17

はじめに

このガイドは、Kofax RPA を使用してロボットを構築するプロセスを実行するためのチュートリアルを提供します。

チュートリアルでは、Kofax RPA をダウンロードしてコンピュータにインストールしていることを前提としています。製品の使用を開始するには、『Kofax RPA インストール ガイド』の「クイックスタートガイド」の章を参照してください。

関連ドキュメント

Kofax RPA のドキュメント セットには次の場所からアクセスできます。¹

<https://docshield.kofax.com/Portal/Products/RPA/11.5.0-nlfihq5gwr/RPA.htm>

ドキュメント セットには、次のようなリソースがアルファベット順で含まれています。

Kofax RPA 管理者ガイド

Kofax RPA での管理タスクについて説明します。

Kofax RPA のベストプラクティス ガイド

Kofax RPA 環境でロボット ライフサイクル マネジメントを使用しながらパフォーマンスを最適化し、成功を確実にするために推奨される方法とテクニックを提供します。

Kofax RPA Desktop Automation サービス ガイド

リモート コンピューターで Desktop Automation を使用するために必要な Desktop Automation サービスを設定および管理する方法について説明します。

Kofax RPA 開発者ガイド

RoboServer でロボットを実行するために使用される Java および .NET API のプログラマー ユーザー ガイドが含まれています。また、製品で提供される Management Console REST サービスに関する情報が含まれています。

¹ オンラインのドキュメント セットにアクセスするにはインターネットに接続する必要があります。インターネットに接続せずにアクセスする方法については、『インストール ガイド』を参照してください。

Kofax RPA ロボット構築の開始ガイド

Kofax RPA を使用してロボットを構築するプロセスを実行するためのチュートリアルを提供します。

Kofax RPA Document Transformation スタート ガイド

OCR、抽出、フィールドの書式設定、検証などを含む Kofax RPA 環境の Document Transformation 機能を使用する方法について説明します。

Kofax RPA のヘルプ

Kofax RPA の使用方法について説明しています。ヘルプは、『Kofax RPA ユーザー ガイド』という PDF 形式のドキュメントとしても提供されています。

Kofax RPA インストール ガイド

Kofax RPA およびそのコンポーネントを開発環境にインストールする方法について説明します。

Kofax RPA Java API documentation (Kofax RPA Java API ドキュメント)

開発者が Kofax RPA で使用できる Kofax RPA Java API パッケージおよびクラスへのアクセスを提供します。

 Kofax RPA API は、元の製品名である「RoboSuite」に対する詳細な参照を含んでいます。RoboSuite の名前は下位互換性を確保するために残されています。API ドキュメントの中では、RoboSuite という用語は Kofax RPA と同じ意味で使われています。

Kofax RPA リリース ノート

その他の Kofax RPA ドキュメントからは入手できない最新の詳細やその他の情報が含まれています。

Kofax RPA 技術仕様

サポートされるオペレーティング システムおよびその他のシステム要件に関する情報が含まれています。

Kofax RPA アップグレード ガイド

Kofax RPA やそのコンポーネントを新しいバージョンにアップグレードする手順が含まれています。

Kofax RPA ユーザー ガイド

Kofax RPA とそのコンポーネントの使用手順が記載されています。Kofax RPA のヘルプ トピックに加えて、ヘルプに記載されていない詳細な内容が含まれています。

トレーニング

Kofax は、Kofax RPA ソリューションを最大限に活用するために、教室でのトレーニングとコンピュータでのトレーニングを提供しています。利用可能なトレーニング オプションとスケジュールの詳細については、<https://learn.kofax.com/> の Kofax 教育ポータルを参照してください。

また、<https://smarthub.kofax.com/> の Kofax Intelligent Automation SmartHub にアクセスして、追加のソリューション、ロボット、コネクタなどを見つけることもできます。

Kofax 製品のヘルプの入手

[[Kofax Knowledge Portal \(Kofax ナレッジ ポータル\)](#)] リポジトリにある記事の内容は定期的に更新され、Kofax 製品の最新情報について参照できます。製品に関してご不明の点がある場合は、Knowledge Portal (ナレッジ ポータル) で情報を検索することをお勧めします。

[Kofax Knowledge Portal] にアクセスするには、<https://knowledge.kofax.com> にアクセスしてください。

 [Kofax Knowledge Portal] は Google Chrome、Mozilla Firefox、または Microsoft Edge 向けに最適化されています。

[Kofax Knowledge Portal] は以下の内容を提供します。

- 強力な検索機能で必要な情報をすぐに見つけることができます。
[[Search \(検索\)](#)] ボックスに目的の語句を入力し、検索アイコンをクリックしてください。
- 製品情報、設定の詳細、リリース情報などのドキュメント。
記事を見つけるには、Knowledge Portal のホームページにアクセスし、製品に該当するソリューション ファミリを選択するか、[[View All Products \(すべての製品を表示\)](#)] ボタンをクリックします。

Knowledge Portal のホームページからは、次の操作を実行できます。

- Kofax Community (Kofax コミュニティ) へのアクセス (全カスタマー)。
[[Resources \(リソース\)](#)] メニューで、[[Community \(コミュニティ\)](#)] リンクをクリックします。
- Kofax Customer Portal (Kofax カスタマー ポータル) へのアクセス (一部のカスタマーのみ)。
[[Support Portal Information \(サポート ポータルの情報\)](#)] ページに移動し、[[Log in to the Customer Portal \(カスタマー ポータルにログイン\)](#)] をクリックします。
- Kofax Partner Portal (Kofax パートナー ポータル) へのアクセス (一部のパートナーのみ)。
[[Support Portal Information](#)] ページに移動し、[[Log in to the Partner Portal \(パートナー ポータルにログイン\)](#)] をクリックします。
- Kofax サポート コミットメント、ライフサイクル ポリシー、電子フルフィルメントの詳細、セルフサービス ツールへのアクセス。
[[Support Details \(サポートの詳細\)](#)] ページに移動し、適切な記事を選択します。

第 1 章

ロボットの構築

概要

Kofax RPA では、ネットワーク接続しているコンピュータ上の Windows および Java アプリケーションを対象とする作業プロセスを自動化できるロボットを作成して、これらのアプリケーションの制御を自動化することができます。

ロボットワークフローは、順々に実行される一連のステップです。これらのステップは、自動化されているアプリケーションをユーザーが操作する方法をモデル化しています。

ステップは、ロボットワークフローの基本的な設定要素です。一部のステップは単純で、マウス移動やキープレスなどの 1 つのアクションを実行します。複合ステップと呼ばれるその他のステップには、追加のステップが含まれていることがあります。

ロボットワークフローを編集すると、ロボットと自動化中のアプリケーションのビューが、ロボット状態の詳細、およびロボットを手動で制御するためのボタンとともに表示されます。

詳細については、『Kofax RPA のヘルプ』の「ロボットの構築」を参照してください。

Desktop Automation サービス

リモート コンピューター上のアプリケーションを自動化するには、Desktop Automation サービスをインストールして設定し、サービスを Design Studio に接続します。

詳細については、『Kofax RPA Desktop Automation サービス ガイド』を参照してください。

ネットワーク環境とアプリケーションはコンピュータごとに異なるため、チュートリアル「[ロボットを構築する方法](#)」にはリモート コンピューターでのアプリケーションの使用は含まれていません。したがって、Desktop Automation サービスをインストールしなくても Design Studio でチュートリアル ロボットを構築できます。

ロボットを構築する方法

このステップバイステップのチュートリアルでは、ロボット  を作成、編集、および使用する方法について説明します。また、ループ ステップ、値の抽出ステップ、条件付きステップ、割り当てステップ、テキスト入力ステップといった、最も一般的に使用される機能を紹介します。

このチュートリアルは、4つの主要部分で構成されています。

- 組み込みブラウザを使用して、スケジュールで利用可能な最初の3つのトレーニングコースについての情報を、Kofax Web サイトの教育ページ (<https://learn.kofax.com/index.php/jem-categories/category>) から抽出する
- 組み込み Excel ドライバーを使用して、抽出した情報をスプレッドシートに書き込む
- Excel ファイルをローカル フォルダに保存する
- ブラウザと Excel を閉じる

事前のステップ

チュートリアルの主要なセクションに進む前に、以下のステップを実行します。最初に、Design Studio でベーシック エンジン ロボットを作成し、ロボットを作成して、このロボットをベーシック エンジン ロボットから呼び出す必要があります。また、抽出されたデータを保存するためにタイプを作成する必要があります。青いアイコン  で識別されるベーシック エンジン ロボットとは対照的に、ロボットは緑色のアイコン  で識別されます。

1. ベーシック エンジン ロボットの作成

a. Design Studio を起動します。

b. [ファイル] > [新しいベーシック エンジン ロボット] をクリックします。

c. ロボットに **TrainingSchedule** という名前を付け、プロジェクトを選択し、[終了] をクリックします。

エディター ウィンドウの新しいタブに新しいロボットが表示されます。デフォルトでは、[スマート再実行 (フル)] 実行モードが選択され、作成されたロボットで終了ステップが選択されます。

d. ロボットの編集と実行を開始するには、アプリケーション ビューまたはツールバーの [実行の準備]  をクリックして、ロボットの実行準備を行う必要があります。このアクションをクリックすると、ロボットが実行モードになり、編集中にロボットを実行できるようになります。アクション ステップは、ロボット ワークフローに挿入した直後に実行することができ、すぐに結果が表示されます。ベーシック エンジン ロボットの実行準備ができていない場合でもステップの追加などの基本的な一部の基本的な編集を実行できますが、ステップを実行して結果を表示することはできません。

 実行権限を保持できるベーシック エンジン ロボットは一度に1つのみであるため、ロボット間で実行権限を引き継ぐには、必要なロボットが配置されたタブを開いて、[実行の準備] をクリックします。

e. 新規作成ロボットに [アクション ステップ] を挿入します。これを行うには、ロボットのワークフローを右クリックし、[ステップを挿入] > [アクション ステップ] の順にクリックします。

f. 変更を保存します。

2. ロボットの作成

a. [ファイル] > [新規ロボット] をクリックします。

b. ロボットに **TrainingScheduleDA** という名前を付け、プロジェクトを選択し、[終了] をクリックします。

エディター ウィンドウの新しいタブに新しいロボットが表示されます。

3. ベーシック エンジン ロボットからのロボットの呼び出し

- a. [TrainingSchedule] というベーシック エンジン ロボットが表示されているタブを開きます。
- b. 挿入したステップで、[アクション] タブの [アクションを選択] をクリックし、[ロボットを呼び出す] を選択します。



- c. [ロボット] ドロップダウン リストで [TrainingScheduleDA] ロボットを選択します。
- d. 変更を保存します。
- e. 実行が許可されている場合は、ロボット ワークフローを開きます。ワークフローを開くには、ツールバーの [ロボットにステップ] をクリックします。

TrainingScheduleDA ロボットが表示されているタブが開きます。

ベーシック エンジン ロボットが実行権限を保持している場合は、このロボットのエディター タブがハイライト表示されます。ベーシック エンジン ロボットがロボットを呼び出している場合は、次のように、両方のロボットのタブがハイライト表示されるので便利です。現在実行されているロボットには赤い点が付いています。



4. タイプを作成する

- a. [ファイル] > [新しいタイプ] をクリックします。
- b. タイプに **TrainingScheduleType** という名前を付け、プロジェクトを選択し、[終了] をクリックします。
- c. プラス記号をクリックして新しい属性をタイプに追加します。次の属性を追加して、そのタイプを指定します。

名前	属性の種類
Date	Short Text
Course	Short Text
Location	Short Text
LocationInfo	Short Text

「Short Text」は、1 行を超えないテキストを含めることのできるシンプルなタイプです。

- d. 変更を保存します。

これで、オートメーション ワークフローのデザインを開始する準備ができました。次のセクションに進んでください。

Web サイトと Excel を開く

1. 組み込みブラウザで Kofax 教育 Web サイトを開く

- a. まず、**TrainingScheduleDA** というロボットが表示されているタブを開きます。組み込みブラウザで Kofax Web サイトの教育ページを開くには、最初のフロー ポイント (小さな円) を右クリックし、アプリケーション > ブラウザ をクリックします。ステップの名前を「**Open Website**」に変更します。
- b. 挿入した参照ステップを展開し、[ブラウザ] リストで [**Chromium**] を選択して、アプリケーション名 (「app」など) を入力し、[アクション] リストで [ページ読込] を選択してから、次の URL を [URL] プロパティに貼り付けます。
<https://learn.kofax.com/index.php/jem-categories/category>
- c. [ステップ オーバー]  をクリックしてこのステップを実行します。[レコーダー ビュー] で、Web サイトが新しいタブで開きます。

i 確認が必要な情報がある場合は、オートメーション ワークフローのステップにコメントを残すことができます。

コメント
This is a link to the Education page.

コメントを入力または変更するには、ステップまたはグループ ステップをクリックして、[コメント] ウィンドウでメモを追加/変更します。ここでは [元に戻す] および [やり直し] ボタンを使用できます。コメントは、ウィンドウの外側をクリックすると自動的に保存されます。コメントを含むステップには、コメント記号が付きます。



2. 組み込み Excel ドライバーを開く

- a. ワークフロー内の次のフロー ポイントを右クリックし、アプリケーション > **Excel** をクリックします。
- b. 挿入したステップを展開し、[アクション] リストで [ファイルを作成] を選択します。
- c. [ステップ オーバー]  をクリックしてこのステップを実行します。[レコーダー ビュー] で、Excel が新しいタブで開きます。



終了したら次のセクションに進みます。

Web サイトからの情報の抽出

この手順では、最初の3つのスケジュール済みコースに関する情報を抽出します。抽出されるのは、コースの開催日、コースのタイトル、コースの場所、および追加情報を含むロケーション ページの URL などです。

1. 情報を抽出してループを追加する Web サイト領域を見つける

- a. 組み込みブラウザで、テーブルの最初の行の最初のセルを右クリックし、[ループ]>[テーブル行繰り返し]>[最初の行を除外] をクリックします。

このアクションは、ヘッダー行を除くすべてのテーブル行を繰り返し処理する要素の繰り返しステップをロボットに挿入します。

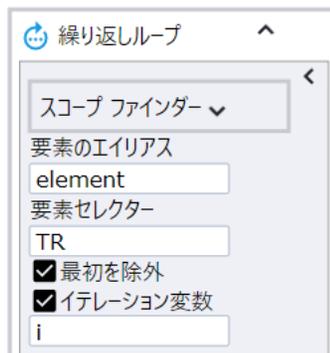
- b. ワークフローで、[最初の行を除外] ステップを展開し、次の手順を実行します。

- [コンポーネント] ボックスを展開し、プロパティが次の画面と一致することを確認します。

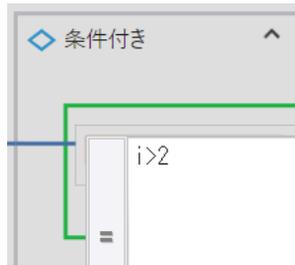


[コンポーネント] フィールドには、セレクトアTABLE によって検出された特定の上位テーブル要素が含まれています。このコンポーネントは、テーブル行をループするとき正しい要素を見つけるために使用されます。

- [要素の繰り返し] ボックスを展開し、[>] をクリックしてループ プロパティ パネルを開きます。[イテレーション変数] を選択してイテレーション値を保存し、変数名として「i」を入力します。また、[最初を除外] が選択されていることを確認します。



- (最初の3行から) 最初の3つのコースの情報のみを抽出するには、ループに条件を追加します。ループ プロパティ パネルの右側にあるフローポイントを右クリックして、条件と制御 > 条件付きステップ を選択します。ステップで、プラス記号をクリックしてテキストフィールドをクリックし、エクスプレッションが評価されるように条件 $i > 2$ を入力します。



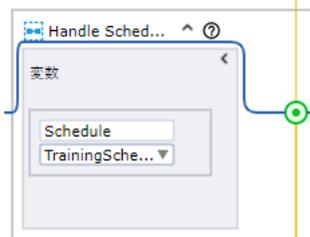
次に、テキスト フィールドの横にあるフロー ポイントを右クリックし、ループ>ブレイクをクリックします。このポイントに対して実行する条件付きステップの横にあるフロー ポイントをダブルクリックします。



ループは最初の 3 つの行を繰り返し処理してから停止するようになります。

2. 情報を抽出するステップを追加する

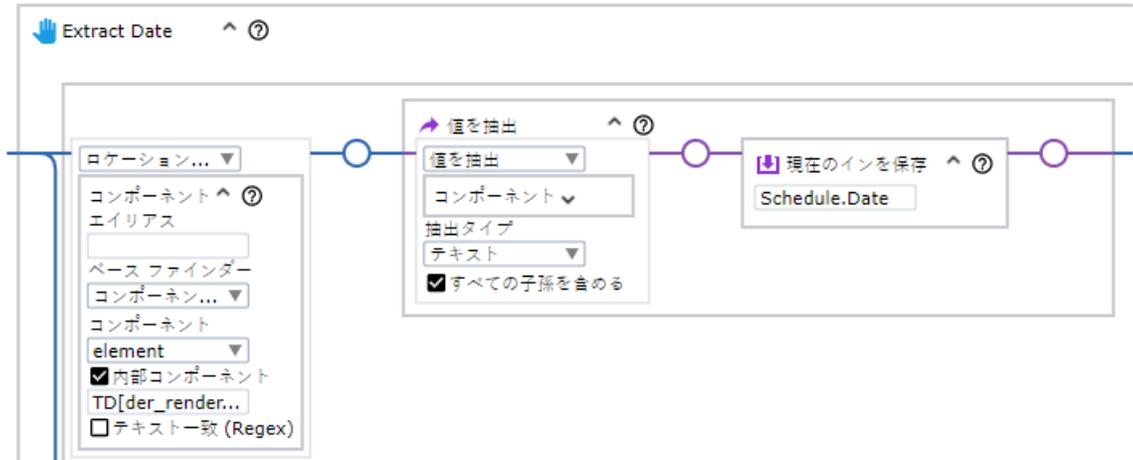
- テーブル行から情報を抽出して Excel スプレッドシートに書き込むステップを追加する前に、必要に応じて要素の繰り返しステップにグループ ステップを追加します。[要素の繰り返し] ボックスで、条件付きステップの右側にあるフロー ポイントを右クリックし、条件と制御>グループをクリックします。たとえば、「Handle Schedule Data」という名前を付けることができます。
- グループ ステップで、[変数] ボックスを展開し、抽出された情報を格納する変数の名前 (たとえば「Schedule」) を指定し、ドロップダウン リストからタイプ **TrainingScheduleType** を選択します。このポイントに対して実行する、作成したグループ ステップ内のフロー ポイントをダブルクリックします。



- 組み込みブラウザのトレーニング コースがあるテーブルで、日付範囲を含む 2 行目の最初のセルを右クリックしてから、[ここから値を抽出]>[テキスト]>**Schedule: TrainingScheduleType**>**Date: Text**の順にクリックします。

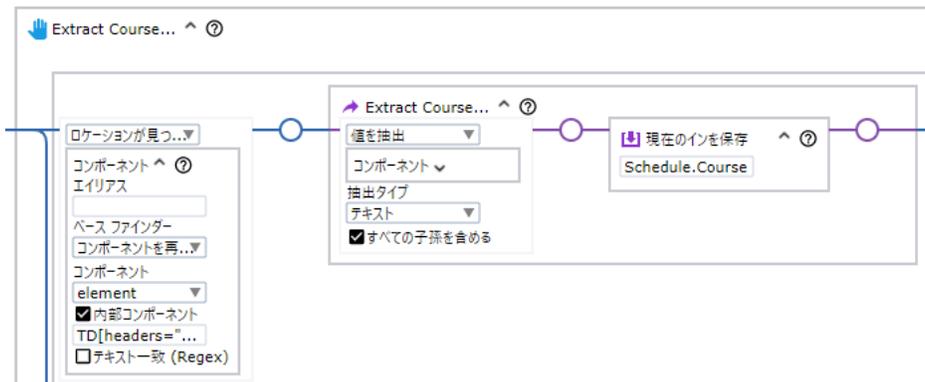
日付範囲ではなく、セル全体が選択されていることを確認します。

値を抽出ステップがワークフローに挿入されます。たとえば、「Extract Date」という名前を付けることができます。



[内部コンポーネント] フィールドは、すでに見つかったテーブル コンポーネント内のコンポーネントを検索するために使用されます。次の下位テーブル要素が含まれています。TD[headers="jem_date"].TD は「テーブル行」を表します。

- d. [ステップ オーバー] をクリックしてこのステップを実行します。
- e. 同じ行で、コースのタイトルのセルを右クリックし、[ここから値を抽出] > [テキスト] > **Schedule: TrainingScheduleType > Course: Text** の順にクリックします。
タイトル自体ではなく、セル全体が選択されていることを確認します。
値を抽出ステップがワークフローに挿入されます。たとえば、「Extract Course Title」という名前を付けることができます。

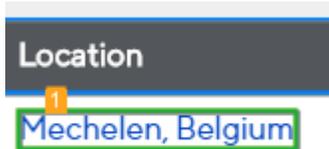


[内部コンポーネント] フィールドには、次の下位テーブル コンポーネントが含まれています。TD[headers="jem_title"]

- f. [ステップ オーバー] をクリックしてこのステップを実行します。
- g. 今度は **Location** 変数を選択して、Location セルに同じアクションを繰り返します。
[内部コンポーネント] フィールドには、次の下位テーブル コンポーネントが含まれます。TD[headers="jem_location"]
このステップに「Extract Course Location」という名前を付けることができます。
- h. [ステップ オーバー] をクリックしてこのステップを実行します。

3. 場所ごとに Web ページの相対 URL を抽出する

- a. Location セルを右クリックし、今度はセル全体ではなく、場所名自体を選択します。次に、[ここから値を抽出] > [属性] > [href] > **Schedule: TrainingScheduleType** > **LocationInfo: Text** の順にクリックします。



値を抽出ステップがワークフローに挿入されます。[内部コンポーネント] フィールドには、次の下位テーブル コンポーネントが含まれています。

```
TD[der_rendered="y"]:nth-of-type(3) > A[der_rendered="y"]
```

「Extract Relative URL」という名前を付けることができます。

- b. [ステップ オーバー] をクリックしてこのステップを実行します。

4. 場所ごとに Web ページの絶対 URL を構成する

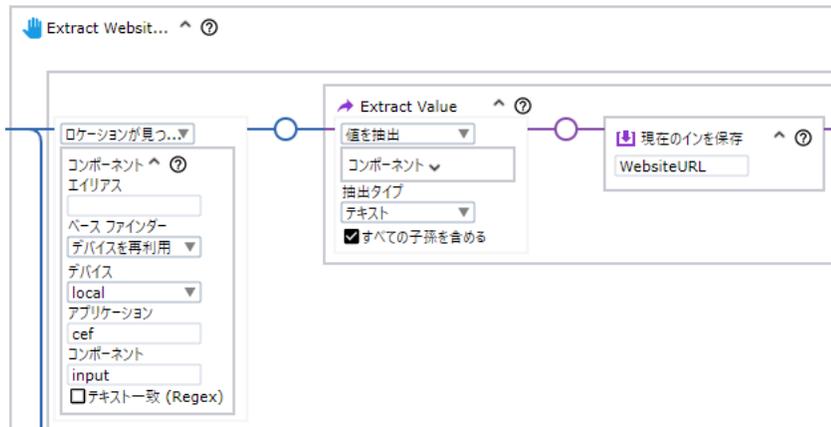
前のステップでは、コースの場所の Web ページに対する相対 URL を抽出しました。たとえば、/index.php/ilt-training-locations/venue/1-kofax-mechelen-belgium のようになりました。この URL には ベース URL の <https://learn.kofax.com> が含まれていないため、単独で使用することはできません。

この URL を、個別に使用できる絶対 URL に変換するには、Kofax 教育ページの URL を抽出し、次のようにベースURLにトリミングしてから、「抽出した情報を Excel に書き込む」に示すように、相対URLと連結 (リンク) する必要があります。

- a. ページ上部の Web サイトのアドレスを右クリックして、[ここから値を抽出] > [テキスト] > [変数を作成] をクリックします。



- b. 新しいダイアログ ボックスで、抽出した URL を格納する変数の名前を割り当てます。たとえば、**WebsiteURL** という名前を付けて、[OK] をクリックします。
値を抽出ステップがワークフローに挿入されます。「Extract Website URL」という名前を付けることができます。



- c. [ステップ オーバー]  をクリックしてこのステップを実行します。
このステップでは、Kofax Web サイトの教育ページの URL を抽出し、変数に格納します。
- d. ここで、教育ページの URL をトリミングして、ベース URL のみが含まれるようにする必要があります。
 1. [Extract Website URL] ステップの後のフロー ポイントを右クリックし、割り当てと変換 > 割り当て をクリックします。
割り当てステップがワークフローに挿入されます。ステップを展開します。
 2. [変数] フィールドに「WebsiteURL」と入力します。[エクスペッション] フィールドに、次のエクスペッションを入力します。WebsiteURL.substring(0, WebsiteURL.indexOf(".com/") + 4)
このエクスペッションでは、WebsiteURL 変数に含まれる文字列が部分文字列にトリミングされます。つまり、ランキング ページの URL は、「.com」で終わるベース部分のみを含むように短縮されます。
 3. 左の灰色のバーをクリックすると等号が表示され、エクスペッションを評価できます。



4. [ステップ オーバー]  をクリックしてこのステップを実行します。
5. 最終的に、5 つの値の抽出ステップと 1 つの割り当てステップが作成されます。ステップをグループ化します。グループに「Extract Information」という名前を付けることができます。
このポイントに対して実行するこのグループの横にあるフロー ポイントをダブルクリックします。

i グループが実行されると、抽出された値を確認することができます。右側の [状態] ペインで、[変数] 分岐を展開します。

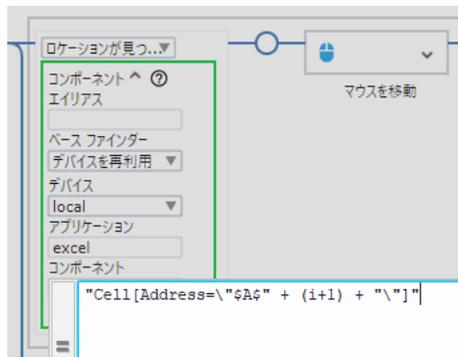
終了したら次のセクションに進みます。

抽出した情報を Excel に書き込む

1. 抽出した情報を Excel スプレッドシートに書き込むステップを追加する

- Excel で A1 セルを右クリックしてから、[テキストの置き換え] > [変数から] > **Schedule: TrainingScheduleType** > **Date: Text** の順にクリックします。
「Schedule.Date からテキストを入力」ステップがワークフローに挿入されます。
- ステップを展開し、[コンポーネント] ボックスを展開して [コンポーネント] フィールドのエクスペッションに **+(i+1)+"\"** を追加し、スプレッドシートの現在の行の次の行に移動します。最終的なエクスペッションは次のようになります。"**Cell[Address="\\$A\$" + (i+1) + "\"]"**

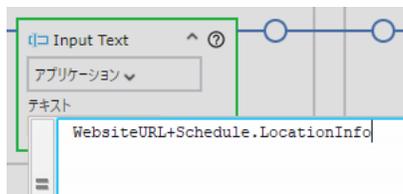
左側にある灰色のバーをクリックすると等号が表示されます。



- [ステップ オーバー] をクリックしてこのステップを実行します。
 - スプレッドシートの B1、C1、および D1 セルに対してこれらのアクションを繰り返しますが、そのたびに対応する変数 (**Course**、**Location**、**WebsiteURL**) を選択します。
2. [WebsiteURL からテキストを入力] ステップを展開してから、[入力テキスト] ボックスを展開します。

[テキスト] フィールドに、次のエクスペッションを入力します。 **WebsiteURL +Schedule.LocationInfo**

左の灰色のバーをクリックすると等号が表示されます。



このエクスペッションで、前のセクションで抽出した 2 つの URL が連結され、Kofax Web サイトの各コースのロケーション Web ページを示す絶対 URL になります。

3. 最終的に、4つの「変数からテキストを入力」ステップが完成します。ステップをグループ化します。たとえば、グループに「Insert to Excel」という名前を付けることができます。
「最初の行を除外」ステップの横にあるフローポイントをダブルクリックして、ステップ全体を実行します。



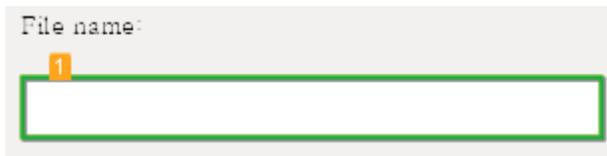
情報が Web ページからどのように抽出され、Excel に書き込まれているかを確認します。

終了したら次のセクションに進みます。

Excel ファイルをローカルに保存してアプリケーションを閉じる

1. Excel スプレッドシートを保存する

- Excel で、[保存] ボタンを右クリックし、[クリック]>[左] をクリックします。
左クリック ステップがワークフローに挿入されます。[ステップ オーバー] をクリックしてこのステップを実行します。
- [名前を付けて保存] ダイアログ ボックスで、[ファイル名] テキスト フィールドを選択します。



次に、フィールドを右クリックして [テキストの置き換え]>[固定値] をクリックします。

ファイルを保存する場所とファイル名 (C:/Documents/KofaxRPAScheduledCourses.xlsx など) を指定して、[OK] をクリックします。指定されたパスが存在することを確認します。

入力ステップがワークフローに挿入されます。[ステップ オーバー] をクリックしてこのステップを実行します。

- [保存] ボタンを選択して右クリックし、[クリック]>[左] をクリックします。
左クリック ステップがワークフローに挿入されます。[ステップ オーバー] をクリックしてこのステップを実行します。

必要に応じてステップの名前を変更します。

2. 組み込み Excel ドライバーと組み込みブラウザを閉じる

ロボットを再起動するときには開いているウィンドウが重複するとエラーの原因となるため、実行の最後に Excel ウィンドウと Web ページを閉じるステップを追加します。

- [Excel] タブを選択し、右上隅の [閉じる] ボタンを右クリックして、[クリック]>[左] をクリックします。
[ステップ オーバー] をクリックしてこのステップを実行します。[Excel] タブが閉じます。
- [ブラウザ] タブを選択し、[閉じる] ボタンで同じアクションを実行します。

[ステップ オーバー]  をクリックしてこのステップを実行します。[ブラウザ] タブも閉じます。

必要に応じてステップの名前を変更します。

レコーダービュー

レコーダービュー]の要素を右クリックし、[記録されないインスタント クリック] をクリックして、[左] マウス クリックを選択します。[記録されないインスタント クリック] アクションは、ワークフローにアクションを記録することなく、コンテキスト メニューやドロップダウン リストで使用可能なオプションを確認する場合にも役に立ちます。

ロボットの編集集中にブラウザ、Excel などの組み込みアプリケーション タブを閉じるには、タブの右上隅にある [閉じる] ボタンをクリックします。これはステップではなく、タブは他のウィンドウと同じように閉じます。

ロボットが使用できる状態になります。ロボットを保存します。作成したワークフローを保存して更新した後に、[実行を開始]  をクリックしてワークフローを最初から実行します。ロボットの実行が終了した後に、選択した場所にナビゲートし、Excel ファイルで結果を確認します。

- ロボット  からステップアウトして、ベーシック エンジン ロボット  に切り替えるには、ワークフロー全体が実行された後に、ツールバーの [ステップアウト]  をクリックします。ベーシック エンジン ロボット  で、「ロボットを呼び出す」ステップが実行済みと表示されます。
- 最後まで実行しないで、または結果を返さないでロボットを終了するには、ツールバーの [ロボットの終了]  をクリックします。ベーシック エンジン ロボット  が配置されたタブが開きます。「ロボットを呼び出す」ステップが未実行と表示されます。